



日本にも氷河はあったの

氷期にはあったが、今はない

今の地球上は、氷河が少ない時期で、間氷期といいます。過去には、陸地の3分の1が氷河で、おおわれていたときがありました。このときを、氷期といいます。

日本でも氷期には、日本アルプスや、日高山脈に氷河がありましたが、今の日本には、氷河はありません。

日本アルプスや日高山脈に、氷河があったことが、確かめられるのは、氷河がつくった地形が残っているからです。それは、カール(圏谷)とよばれているもので、氷河によって、スプーンの形のように、えぐりとられた地形です。

氷河ができる所は、1年中、雪が降り積もる所です。日本の高い山でも、1年中、雪が降り積もる所はないので、今の日本には、氷河がないのです。

氷河のできかた

1年の平均気温が0よりも低い、高い山や、北極や南極に近い寒い地方では、1年中雪が、降り積もっている所があります。このような雪を万年雪といいます。この雪は、1年中、とけません。

雪がとけないうちに、その上に雪が積もると、長い年月の間に、雪の重さで雪が固められていきます。そして、下の方の雪は氷になります。

この氷が山の間にとまると、その氷の重さのために、大きな氷のかたまりが、低い方へ移動していきます。これを、氷河といいます。(監修・国司 真)

